荒尾市立府本小学校　校長便り　№１５

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和７年６月２日(月)

【愛語録】「失敗しないことをいつも最優先に考えて行動していくと、
無意識のうちに徐々に失敗していくともいえる。」　佐々木 直彦（コンサルタント）氏の言葉

《雑感》陰口、悪口、噂話

小学校中学年位からの特徴と言いますか、子ども達は仲のよい気の合う友だちと「グループ」を作って、休み時間等に談笑します。どちらかというと女子の方にこの傾向が強いようです。本当に楽しい、ためになる話ならいいのですが、その内容が悪口や陰口、噂話はいけません。私自身、担任時代に自分を戒めるために、子ども達にこんな話をしていました。

「陰口や悪口、噂話は、聞いている方も疲れるんだよね。エネルギー使う！　気分も悪い。しかも陰口や悪口、噂話は、必ず自分に降りかかってくるからね。逆に人をほめる話はいいねぇ。喋った後も何か気分がいい。少なくとも私は両親から、陰口や悪口、噂話は絶対にするな、人が寄って来なくなるぞって言われてたからなぁ。こうも言った、人の意見は素直に受け入れなさい、特に指摘や批判については〝ありがとう〟という気持ちを持って聞きなさい。」

今になってみれば「その通り！」って思います。他愛のない話題の中で、他人の批判ばかりする人の話は、聞く側としては苦痛です。他人への批判は必ず自分に降りかかってきます。その逆も真なり、自分の価値を上げるために周囲を誉めましょう。そして、素直さ謙虚さは重要です。そして、ありがとうという素直な気持ちで自分を成長させたいものです。

《雑感》責任が人を育てる

登校班や委員会活動の６年生の姿を見て思うことがあります。下学年の存在が、子どもの成長を支えていると。２年生から６年生は１年生が楽しく生活を送れるように、また６年生は最高学年として学校をリードする姿を後輩に見せよう、伝統を伝えようと頑張っているのでしょう。

ある本を読んでいたら、こんなフレーズがありました。「〈職業〉はその道に入った人間をそのように造って行く。そういうものだ。」なるほど、責任を与えることで人間は変われるということです。子ども達は、１年生の面倒を見たいと思って仕事をしている人もいれば、与えられた仕事だからやっている人もいます。両者ともに、その立場に置かれたからこそ、やりがい（自己有用感）を感じ、頑張っているのです。私達大人もそうですね。与えられた責任は、それを果たそうと必死で努力して、何とか結果を出していくのです。私もこれまで、上司の命令に対し間違いではないかと感じた時は必ず質問していました。そして職務上の命令にはまず「はい。」の返事からと肝に銘じていました。そして結果を出そうと努力してきました。

保護者の皆様は如何でしょうか。子ども達は私達大人の姿を見て成長していきます。子ども達に対し恥ずかしくないよう、責任を果たせているか自戒する必要があります。

最近、挨拶ができる人と苦手な人とでとても差があるように思います。今後は、高学年の皆さんには是非お手本となるような挨拶をして欲しいと願います。挨拶は人と人とを繋ぐ基本中の基本です。社会に出ても絶対に必要です。本校において、低学年の子ども達が高学年のお兄さんお姉さんに憧れ、「自分もそうありたい」と願い、良き伝統が続いていくことを願っています。

シリーズ「自分を語る」#１５

放課後…、なかなかいい響きですね～。保護者の皆様にも色々な思い出があるのではないでしょうか。私にも小、中、高と、多くの思い出があります。今私は小学校勤務なので、まずは小学校の頃を思い出してみました。子ども達を見守り支える社会的な力も高かった時代です。多少の道草も許されるし、帰宅が遅くなることも多かったように思います。そんな時代ですから、用もないのに放課後だらだらと教室に残る訳です。そして他愛のない話を延々と続けるんですが、これが何とも楽しかったのです。そして、高学年ともなると「好きな人」の話とかで盛り上がりまして、そこに先生が現れて叱られて、叱られた後は先生も話に参加して、先生のよもやま話を聞くこともありました。ほんと、どうでもいい下らない話なのですが、先生と勉強以外で話をすると結構楽しいんですよね。だから私は小学校の時の勉強の話はあまり覚えてないんです。心の底から楽しいなぁと思っていたので、６年生のときなんか「あ～ぁ、このまま小学生だったらよかったに…」なんて、本気で思っていましたから。そんな楽しい小学校生活を、子ども達に味わわせてあげたい！　と思っても、最近はなかなか放課後の時間なんてありません。学校では会議や部活、子ども達は家に帰れば塾や習い事等で忙しく動き回っています。私達が小学校の頃は、こうじゃありませんでした。社会が急激に変化してしまって、何をするにしても危険が伴ってしまって、こう、何か「世知辛い」世の中になってしまいましたね。でも、諦めてはいけません、子ども達との思い出作りは。それが楽しかったから教師を目指した私ですから。

小学校の高学年というと色々なことに興味をもちつつ、しかしながら客観的な判断はまだしっかりとはできない、そんな時代でしょうか。私、勉強は嫌いでした。しなければならないということは理解できるのですが、なかなか実践できないでいました。そんな中、５年生の２学期の通知表はすごい結果でした。何と、５段階評価で１～５全てがあるじゃありませんか!!　これには自分でもびっくりしました。５は体育と図工でした。１は社会でした。算数は２、国語は３…、他は忘れちゃいましたね。母はこの通知表を見て、神棚にお供え物をしたとかしないとか!!　私は呑気なもので、「別にいいや…」って思っていました。ある日父がこう言いました。「敦は、社会は好かんとか？」「いや、好き。」と答えると、「ならよか。」と呟いた後、会話は途切れました。好きならばまだ伸びる余地ありと考えたのでしょうか。それとも諦めたったのでしょうか…。真相は謎です。でも、たまに今でも言われます。「よくそれで先生やってるねぇ。」そう捉えるのではなく、「人間やればできる。」と捉えてほしいですね。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）